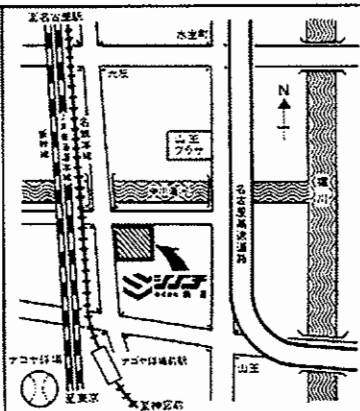


補償コンサルタント情報コミュニケーション誌

シニチ 補償ミニコミ



発行日 / 3ヶ月毎1回 発行所 / 株式会社 新日 名古屋市中川区山王一丁目8-28
編集者 / 秋山 学 TEL <052> 331-5356 FAX <052> 331-4010

発行日の沿革

昭和44年11月	(株)新日調査設計の創設
昭和46年2月	土地家屋調査士登録
昭和46年6月	測量業登録
昭和52年5月	不動産鑑定業登録
昭和57年8月	一級建築士事務所登録
昭和58年1月	建設コンサルタント登録
昭和59年12月	補償コンサルタント登録
昭和62年9月	社名を(株)新日に変更
昭和63年7月	資本金二千八百万円に増資

平素は格別のお引き立てをいただき厚くお礼申し上げます。

弊社では、昭和四十四年に創業以来二十年今日に至るまで「補償コンサルタント業務」に数多く従事してまいりました。

この度当社のスタッフ過去の経歴をより多くの皆様に知っていただくとともに、「情報」を継続して発信することにより多くの皆様と接し、今後補償コンサルタントとして一層の努力・一層の資質の向上をめざす覚悟です。

さて現在の情報化社会の中私ども業界にあって情報の交換及び収集は重要な業務であります。

情報交換及び収集のためには情報の発信源たる必要があると考え、ここに「シニチ補償ミニコミ」を発刊することに致しました。今後は年四回定期的(二月・五月・八月・十一月)に「シニチ補償ミニコミ」を発行し、補償業務に関するアップデートな情報を発信することによって皆様とより多くの接点を得られれば幸いと思っております。

今号は第一号発刊にあたり、主として弊社の補償関連スタッフ及び組織の御案内を行います。

今後とも御指導・御鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

(秋山)

シニチ補償ミニコミ 発刊にあたり

業務のME化、事務処理のOA化はすまじいものがあります。

ありとあらゆる業界のME化、OA化ばかりは流通業界・金融業界にとどまらず我々の業界にも打ち寄せています。

数年前には無縁なものと考えていたワープロ、ファクシミリが一般家庭にまで浸透する勢いで伸展していき、一口にME化、OA化とはいってもその実情はかなりきびしいものがあり無計画な思いつきによる機器の導入によってME機器の導入にあつては、長期的な展望にたつて計画的で慎重かつ大胆にME化、OA化を進め特殊物件の積算及び用地測量図等の自動化システムの開発を進めて来ましたが、そしてそのすべてが満足に稼働しているとはい

の導入によってソフトウェアの開発が思うにまかせずあぐらをかいては機器の遊休状態、事務所の片すみではこりを被っている場合も少なからずあるはずで、こうした場合企業経営をかなり圧迫しているはずで、

弊社においてもME機器の導入にあつては、長期的な展望にたつて計画的で慎重かつ大胆にME化、OA化を進め特殊物件の積算及び用地測量図等の自動化システムの開発を進めて来ましたが、そしてそのすべてが満足に稼働しているとはい

補償スタッフ紹介

大平 四郎 代表取締役 東京帝国大学卒 農林省出身 技術士

《補償業務管理者一覽》

- 秋山 学 取締役補償調査部長 岐阜大学四二年卒 補償業務管理者(物件)
- 葉名尻 一 猿投農林四一年卒 補償業務管理者(機械工作物)
- 河村 利由紀 中部測專五一年卒 補償業務管理者(事業損失)
- 木村 喜隆 中部測專五一年卒 補償業務管理者(土地調査)
- 内田 貢朗 豊田工専四八年卒 補償業務管理者(補償関連)
- 竹本 健 同志社大学四六年卒 補償業務管理者(営業特殊補償)

《補償調査部第一課》

- 永井 利治 中部大学五五年卒 一級建築士
- 小澤 美吉 愛知工業大学五六年卒 二級建築士
- 山内 道保 名城大学五六年卒 二級建築士
- 出口 先太郎 名城大学五七年卒 二級建築士
- 森本 英夫 名城大学六一年卒 二級建築士
- 山下 泉次 名城大学五七年卒 二級建築士
- 河野 幹男 愛知工業大学五九年卒 二級建築士
- 金田 雄裕 愛知工業大学六十年卒 二級建築士

◇特殊物件だより◇

漁業補償調査に思ひ事

現在、県内某河川に於いて内水面漁業の調査を行っています。この時節鮎釣りのシーズンで解禁日には思い思いのポイントに入りがり、半年間の沈黙を破り鬱憤を晴らすかのように竿を操る風景を見てきました。また、この日は私にとつても漁業補償の「解禁日」ともなったわけで、以後この河川の魚達とつきあう行かなければならないわけでありました。

私が普段業務をしている支障物件の補償調査は現地に赴き、寸法を計り写真を撮っていただくと、河川の測量をしても魚のいる場所はわかりませんが、河川の写真を撮って魚は写ってくれませんが、魚は写って聞いても答えてくれるどころか逃げてしまいます。そこで、私が入社以来養って来た「補償の目」を離れて漁師や釣人の目で読み、

魚の気持ちになつて川を見ると随分沢山の事柄が見えてきました。しかしそこには水温・水質の問題、河川の流れや河床の違いによる問題、餌となるコケや水生昆虫の問題や魚種ごとの性質の問題、さらには人為的な放流量の問題などが蓄積されてきました。これらはほとんどが現地へ何度も赴かなければ解決しない問題ばかりであり、一年をサイクルとして取り組むという気の長い問題ばかりです。しかし仕事とはいえ清らかな水の流れと緑の美しさや、野鳥のさえずりを聞きながらの調査には楽しさもあり、この先自分で釣り竿を持つという楽しみも加わって大変とは知りながらも楽しい(?)仕事だと思えます。又今後「補償」という仕事をしていく上でプラスになることが数多く含まれている気が致します。

(小澤)

《補償調査部第二課》

- 宇田川幸夫 芝浦工大五十年卒 一級建築士
- 岩元 淳 名城大学五六年卒 一級建築士
- 尾嶋 裕司 愛知工業大学五八年卒 二級建築士
- 山口 輝利 愛知工業大学五九年卒 一級建築士
- 鶴岡 英昭 中部大学五九年卒 一級建築士
- 小阪 浩治 愛知工業大学六二年卒 二級建築士
- 伊藤 竹臣 愛知工業大学六三年卒